

**REVENGE**

presented by RELAY



**Transsexual Fiction**

**ADULT ONLY**



数年ぶりに

僕の目の前に  
再び姿を現した



女の  
形をした

おぞましい  
『絶望』は



僕の事を

『超高校級の  
希望』

…と、  
知るや否や

あだっぼく  
擦り寄り  
僕を求めた



僕の未来を  
歪ませた  
この女への

復讐が  
始まろうとも  
知らずに

これから

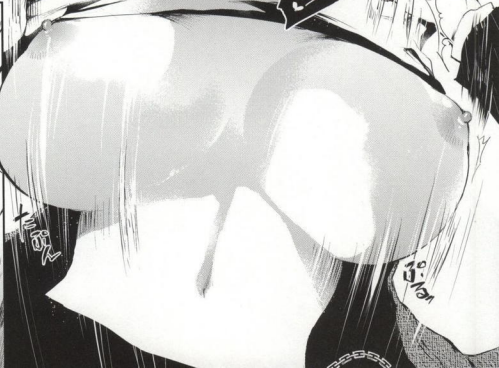
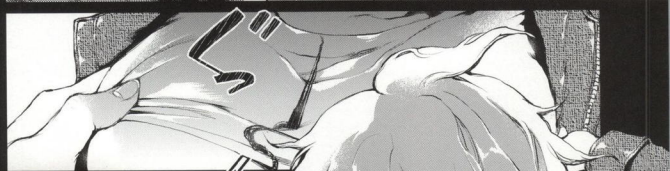


**REVENGE**

リベンジ

presented by 莉零







今になって、学園内で  
最高機密だった君—

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

『超高校級の  
希望』に

出会える  
なんて!

は…



この  
絶望で汚濁した  
世界で  
絶対的な  
希望を  
見つけたんだ

おはっ  
おはっ  
おはっ

最っ高に  
ラッキーだよ

ラッキー？

この女—



それがあなたの才能ですか?

んっ

んっ



過去に学園内で

うん♡



僕と何度も会っていたのに



あなたの才能程度のツマラナイ物なんてね僕も持っていますけどね

僕のことを簡単に忘れている有様



ボクなんかの  
カラダに興味持っ  
てくれるなんて

おはっ  
♡

あっ♡

これこそ

人の怒りを  
煽つて心を  
引つ掻き回す

この女の  
悪意



君は

予備学科の  
生徒なのかな？

本科に  
興味があるの？





俺みたいなの  
予備学科のヤツが  
本科を見学  
していたら

迷惑に  
思うか？

迷惑だなんて  
思うワケないよ



ボク  
なんか  
抽選で本科に  
だけだから

才人に誇れる  
なんて  
なんに  
だも



だから、  
ボクは、  
本科の生徒より

予備学科である  
君と似てると  
思うんだよね。



俺は  
『例の計画』に  
成功したら

本科に  
移籍できるかも  
しれないなんて

今は、  
言いたくても  
我慢しよう

それにしても  
本科に入れるための  
才能を一つでも  
持っているアイツと

何も持って  
いない俺！

有無  
1と0とは  
全く別物だ

何者だ  
あの男は？

さあ？  
でも……  
本科の生徒では  
なさそうです

どうしてですか  
ソニアさん？

私は  
本科に在籍している  
全学年分の生徒の  
名前と顔を全て  
把握しているんです  
彼を知らないの  
で恐らく予備学科の  
生徒だと思えます

すみません、私  
人類なので、私  
辞退します

さすが  
ソニアさん  
俺の嫁！

俺も真正正路  
人類ですけど！

フハハハ  
愚かな  
下等生物め

うん

狼杖、  
本当にか俺で



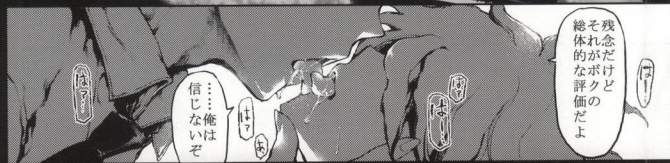
ボクの事を

気味悪がらないで  
構ってくれ  
日向くんが

ボクは  
大好き  
なんだよ

「……?  
「気味悪く」?

オマエ、こんな普通に  
女のコレしてるのに  
そんなこと  
思うヤツが  
いるのか?



残念だけど  
それがボクの  
総合的な評価だよ

……俺は  
信じないぞ

はっ

はっ



嬉しいな  
もつと  
キスしてよ

んっ……



えっ?



愛してるよね?

今日こそボクを



じい



じい



わっ



もしかして日向クン

カラダの初触るの?



『何をされてもって  
そんなこと簡単に  
言うなよオマエ』

君にならも  
構わなよ

そんな、  
が恥ずかしいでよ



俺は『才能』を  
持っていない

お

心無いヤツから  
『どうせ予備学科の生徒なんて  
希望を金で買ったつもりでいる  
バカばかりだべ』と叩かれたり  
学園側から本科の生徒より  
冷遇される事なんか……



いあや！

どうして？  
僕が君に対して  
ダメなの？



もう、  
ダメなんだ

彼女が

俺みたいない  
どこにでも  
いるような  
平凡な男を

『好きだ』  
ってー

求めてる



彼女に対する  
劣等感を拭えずに  
いることの方が

彼女を悲しませて  
しれないかも



俺は素直に  
彼女の好意を

受け入れれば

は

は

は

は









本科の女子を  
暴行しよう  
なんて



生きている  
だけで害悪な  
クズだね。



私たちの計画に

同意  
願えるか？

日向創くん



才能を  
持っている  
というだけで  
持っていない  
者に対して  
ためんな  
迫害も  
ない

そんな奴らの  
どこが  
希望の象徴と  
呼べるんだ？



だつたら俺も  
創つてやるよ

その  
『才能』ってヤツを



何を言う

ご自分の娘と  
同じくらいの歳と  
少年を簡単に  
実験体として  
差し出すとは

しかし、まあ  
学園長！



日向創は先日、  
本科の女生徒に対し  
強姦未遂という大変な  
悪事を犯してくれた

『希望』とは程遠い存在に  
随ちてしまった少年を

どう利用しようと  
私の勝手だ



それに！



表向きには  
彼は退学処分

我々が  
危惧する  
ような  
問題は  
何もない。

…と  
わけて  
いう

『彼』はもう  
消えたよ

狛枝クン

あーあ、  
ガツカリした

なんだ？

彼に未練でも  
あったのかい？

まさか！  
それは  
違うよ

学校カースト

暴行未遂の  
レツアル

彼の求めていた  
『希望』って

その程度で  
心が折れて  
諦めるくらい  
のモノだったんだね



君はまさに  
毒婦だね！

え？

予備学科生は  
才能という  
切り札を  
持っていない分

よりいっそう  
頑張らなければ  
いけないのに  
なんて為体

絶望的に  
みつともないよ

『希望』のため  
という名目で  
平凡な男子生徒に  
理不尽な絶望を  
焚きつける女を

よくも  
平気な顔して  
抱けるわね

おぞましい……！

絶縁だけじゃ  
物足りないわ、

死ね 学園長

「学校カースト」

「暴行未遂の  
レッテル」

「日向ウツガ  
求めていた  
『希望』って」

「その程度で  
心が折れて  
諦めるくらい  
の、  
も、  
だ、  
っ、  
た、  
ん、  
だ、  
ね」

…なんて、  
あの女が  
言いそう  
な  
セリフ  
です

…誰だ  
オマエ？

ずいぶん  
物言いで  
すね

あなたが怖  
気づいて  
変わら  
ずにい  
るから

代わり  
に僕が  
創られ  
たんで  
す

オマエ  
は  
何  
だ  
よ

今まで  
利用され見下され  
搾り取られる  
立場だったあなたは



今はもう、  
すべての才能という  
誰もがうらやむ  
最高の能力を  
持っています

それなのに  
あなたはまだ  
利用される立場から  
逃れられていないから



僕はあなたとは  
脳記憶と人格と感情を  
創出され共有することが  
出来ませんでした

でも、僕は  
信じています。



希望を

私欲<sup>エゴ</sup>だけで浅はかに  
利用することしか考えず  
勝手に生み出された

最悪な事態を無責任に  
隠蔽しようとした  
老害共の狡猾さが  
助長させた

絶望<sup>ぜつぼう</sup>を

そして  
あの女を――

INTERLUDE

日向創<sup>あな</sup>が全て  
ほしいままに支配するんです

ボクには  
わかるんだよ

はい？

君は  
ボクなんかとは  
違って、

希望に  
愛された  
人間なんだって

僕が、  
希望に愛された  
人間……ですか

光栄です

誰が

『希望に  
愛された』  
だって？

ボク、こんなに  
気持ち良くされたの  
初めて

あつ  
イイ！  
もう  
イツチャウ

この  
クソ女

やっぱり

僕の才能  
だけ見ないか





『なんでも  
受け入れる？』

ボク、なんでも  
受け入れるからさ

ざける  
な

何も持っていないかった  
僕の心を

簡単に  
踏みにじった  
でしょう

ちーたーの



さあ、  
ば



おはっ

入っちゃった

よろこ  
悦んだ

挙句に  
あなたの

膣内からもっ  
愛されてるっ

突嫌いな絶望でも

叩きつけて  
差し上げましょうか？



ボクの幸運には

いつも  
絶望がまとわり  
ついていた

だからボクは  
今まで幸せだなんて  
思ったことは  
一度もなかった

僕を陥れた  
この女は

かつて

僕を手のひらで  
転がした挙句

僕があなたと  
一緒にいれば  
幸せですか？

では、

うん♡

ボクの周りの誰かが  
お人か二人死んでも  
幸せだよ

今となっては 僕の行動一つ次第で 幸福にも 不幸にもなる女



でもっ  
君は

ボクといても  
死んでしまうなんて  
思えないんだ  
絶対に！



ボクが  
君がもつと輝くための  
踏み台になってあげるし

いざという時は  
死んであげるよ  
ボクが君の代わりに

そうですか…

死ね



もう、完全に

この女は  
僕のモノ

僕も



幸せです

こんなに たやすく 手に入る この女が 快り潰したいほど 憎い



この船が  
どこに行き着くか  
わからないけど

毎日  
こうやって

ボクを愛して  
くれるよね?

はい



絶対に  
ボクのそばを  
離れないでね。

はい

31



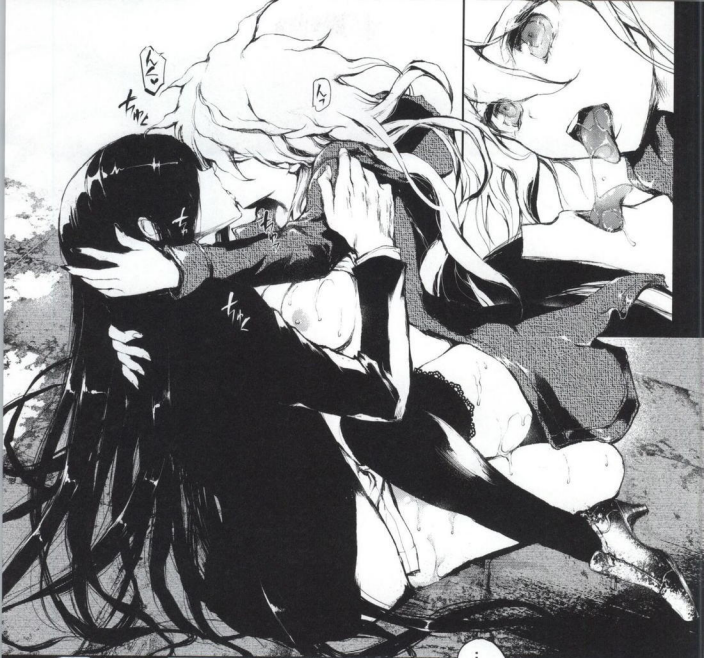
膣<sup>なか</sup>内で出して  
いいですか?

いつちやうの?

全部出して!  
膣<sup>なか</sup>内で!



あつぱい  
出てる...









ハの…

アッ  
アッ

クソ売女！

簡単に股を開くようなツマラナイ女なんて

あなたのようなの元々なんの才能もなかったツマラナイ僕みたいな男に

道端に落ちて  
いる  
ゴミクス  
以下の

無価値な  
モノです

何の権利があつて  
ボクを……!

『権利』?



僕は当然のように  
持ち合わせて  
いますよ

『復讐の権利』を

そなに？

あなたは本当に  
何も覚えて  
いないんですね

僕：いや、  
俺は――

は――

は――

は――

は――

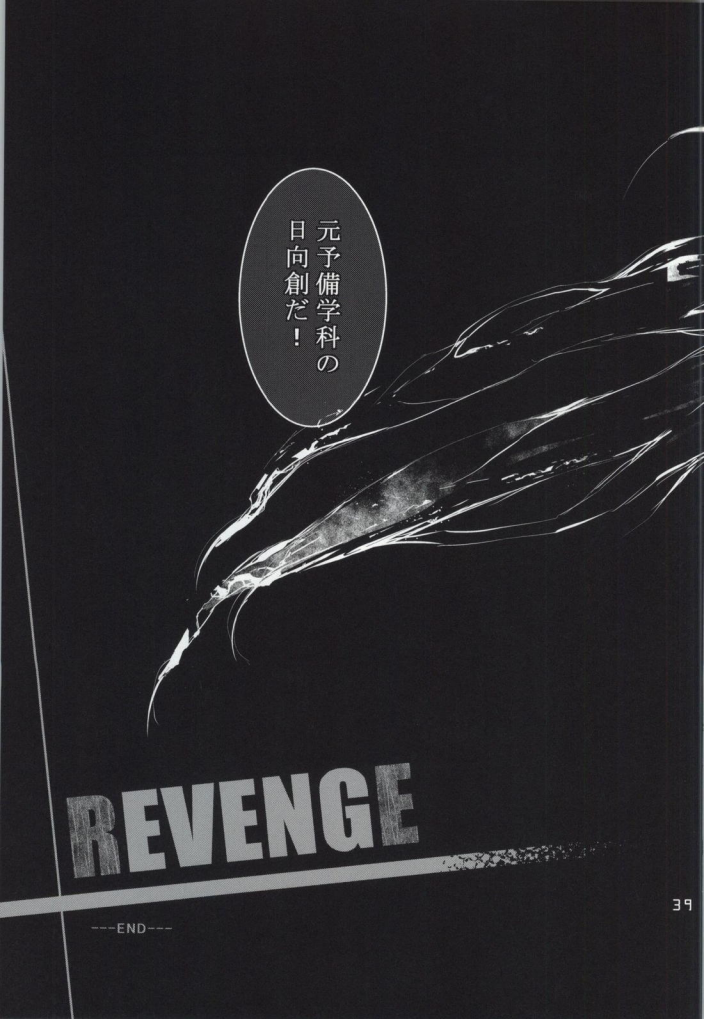
は――





オマエが

徒に侵害した



元予備学科の  
日向創だ！

**REVENGE**

---END---

**REVENGE**

presented by RELAY



Transsexual Fiction

 **ADULT ONLY**